

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解し、事業所独自の理念を作成している。	○	理念に基づいたケアをしていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、全職員で決め、理念の意味を理解し、日々のサービスに反映させている。又、目の付く所へ提示している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域との交流を理念に取り入れ、ホーム玄関等目の届く所に提示している。又家族には、入所時に理念の説明をして、サービスに反映させている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の皆さんには、気軽に来荘していただけるように日々声掛けしています。又、地域の行事には積極的に参加し、交流を深めています。小学校、中学校のボランティア体験学習、交流会の受け入れもしています。	○	実習生の受け入れ、認知症予防についての活動もしていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は1年に1回実施し、個別面談を行っています。外部評価の結果は、職員会議で発表し改善策を話し合っています。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果を報告し、メンバーの意見も頂いたり、地域の声の代弁も聞かれたりしている。それを受け止めサービスの向上に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーにも参加して頂いたり、認定調査時などに意見交換をしている。2ヶ月に1回ホーム便りを作成し配布している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要と思われる家族には、成年後見人制度の説明を行っている。	○ 権利擁護事業、成年後見人制度の研修、講演に積極的に参加し、全職員が理解するように努めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待があったときのマニュアルが作成されており、報告、流れが取り決められている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に、ケアの取り組みを十分に説明し、家族の意見も聞いて理解して頂いている。退去の際は十分に説明し、退所後の情報提供を提供している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に利用者と会話する機会を持ち、意見を聞いています。又、面会後は、家族からも意見を頂き、苦情があった場合は速やかに対応しています。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は毎月郵送にて家族に報告しています。受診状況、暮らしぶりについては、面会時又、外で会った時は状況に応じて報告しています。遠方に住む家族には手紙、電話等で報告しています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱が設けられている活用されていない為、面会時に家族から意見を聞き、日々のサービスに反映させている。	○ 家族会の懇談会を開催したい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見を聞き、月1回の法人会議で報告しています。	○ もっと職員の意見を聞く機会を、設けたいと思います。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来るだけ要望に対応しているが、人数的に無理なこともあり、外出人数、回数が制限されることもあります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員配置の場合は、利用者に紹介し、不安にならないように心掛けている。又、さい荘だよりに顔写真入りで紹介している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修前後には復命所を作成し、職員会議で報告しています。	○	年間研修計画を継続していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いこくま荘、ゆうなぎの里との交流があり、夕涼み会の参加、合同の紅葉狩りも行っている	○	他の法人事業所に働きかけたが交流が実現されていない。今後交流に期待したい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	出来るだけ話し合う機会を持つよう心掛けています。	○	個別に職員の悩みを聞く機会を持ちたいと思います。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回健康診断の実施している。資格手当での支給あり、資格取得にも社内的に協力体制がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、申込みがあった場合は、家族、利用者の状況を聞く機会を設けています。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括センター、居宅支援事業所と連携を取り、支援を行っています。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望があった場合は、事前にホームを見学し、雰囲気を知っていただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの暮らしぶりを把握し、その人にあった個別ケアを心がけています。	○	もっと一緒に行動する機会がもてればいいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所時より常に密に行われ、一緒に本人を支えていく関係を築いております。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の家族には手紙、電話で状況を報告し家族との絆を大切にしています。外で会ったときも状況を報告し、面会を促しています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を代筆したり、昔馴染みの方への外出を支援しています。又、冠婚葬祭時の外出の支援をし、関係が途切れないように努めています。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように職員が間に立って付き添い、見守りしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も気軽に立ち寄っていただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、又は家族から意見を聞き取っています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者がアセスメントし、ケアカンファの時に意見を出し合い情報を収集しています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタルチェックを行っており、一日の行動はケース記録に記入し把握している。又、ユニット会議で意見を出し合い検討しています。	○ 有する力に合わせた作業等に取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が調査し、本人の意見を聞き尊重し計画を作成し、家族にも説明しています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しをしているが、計画作成が遅れる事もある。	○ 計画作成に基づいたケアが出来るよう心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録記入と毎日の申し送りを行っている。気づき点はケース記録に記入し、その都度職員で検討しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の意見を聞き、できる限り柔軟な支援はしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアの協力を得ており、消防、警察等の協力体制も整っている。又、地域の消防団、婦人連合会会、商工会等も行事に協力して下さっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとは入、退所時連携がとられているが、必要に応じ話し合いもされている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは常に連携がとられており、入所判定会議や入、退所持の相談は密に行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人、家族の意向に基づき行っている。受診記録を作成し、家族にも情報を交換している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医の受診を支援している。	○	認知症の医療に熱心で、一人ひとりに応じた助言をしてくれる医師の協力が欲しい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は配置されている。看護職の指導の基に健康管理に努めている。又、地域の看護師、保健師とは気軽に相談できる関係が築かれている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院時は家族、職員、医療機関との話し合いを行い連携に努めている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時に関しては家族、医療機関との話し合いが行われている。重度化した場合は医療機関から助言、指示をいただいているが終末期に関しては方針の共有はされていない。	○	ターミナルケアの研修の参加を重ね対応について方針を共有していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関と話し合いはされているが重度化や終末期には対応したことがない。	○	これから検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用状況報告書、又は口答にて詳細な情報提供がされている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊敬の念を持ち言葉をかけるようにしている。業務時もプライバシーに配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限りコミュニケーションをとり、態度、言葉からも把握している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿って支援しているが、業務優先になることも多々ある。		
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は本人の希望される店に、希望の日時に行っている。又、外出の際は、お洒落をし、お化粧品をして出掛けている。エステ教室を開催し、化粧、マッサージなど楽しまれた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事表を作成し全職員が利用者の好き嫌いを把握している。一緒に調理し、可能な限り一緒に食事を摂っている。又、片付けも一緒に行っている。茶碗、箸、湯呑みなどは一人ひとり使い慣れた物を使用し、楽しく食事出来るように心掛けている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者の嗜好品を把握しており、自分で管理できるものは自由に楽しめるよう支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を作成している。必要があれば時間で誘導している。失禁時は他者に気付かれないように配慮している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞いて対応している。入浴方法も利用者の意向を尊重して行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのパターンに合わせて支援している。昼夜逆転、眠れない方には、生活のリズムが取り戻せるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の皆さんには、一人ひとりに合った役割を持っていただいている。地域行事の参加、ドライブ、外出を楽しんでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の管理能力に合わせ、金銭管理を行えるよう支援している。買い物時は、自分で支払って頂く方もいる。銀行にお小遣いを下ろしに行く支援をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、自分の山、家、図書館など外出する支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいところがあるのは把握しているが遠方な為家族に働きかけをしているが難しい。	○	遠足、ドライブ、買物、紅葉狩りなどは、可能な限り利用者の行きたいところに行っている。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙には返事の代筆の支援をしている。電話は自由に出来る雰囲気を作りゆっくり話して貰っている。年賀所の代筆支援をし、家族、親類、友達等とのつながりを保っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の面会時は、ゆっくり会話出来るよう配慮している。又、宿泊も可能で寝具、食事の提供もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束はしないが、やむを得ず行う場合は、方法、理由を家族に明確に説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず自由に出入りできるようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目をむけ把握している。居室内に居る時も見回りし、戸を少し開けてもらったりもしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のある戸棚で保管し、危険物は手の届かないところに保管している。	○	マニュアル、手引き書の作成をしたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり、ハット事例は全職員に回覧、報告している。事故発生時には報告書を作成し、再発防止に向けた話し合いをしている。事故発生後は市町村、居宅、家族への報告を速やかに行い、市町村には事故報告書を提出している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、それに従って行っています。職場内研修応急手当についても行っています。救急救命研修も受けています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しています。そのうちの1回は夜間を想定し実施しています。又、災害時は地域の消防団の協力が得られるよう働きかけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に説明し理解いただいている。又、身体等の状態変動に応じ家族には説明しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを記録している。又、一人ひとりの持病、アレルギーも把握しています。異変があった場合は、記録し申し送りで伝え、必要に応じ医療機関に相談しています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法用量はファイルし把握しています。服薬は職員2人で確認しています。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取、体操、適度な歩行訓練等で、自然排便を促すようにしているが、医師と相談して服薬する場合もあります。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕は介助、見守りにて口腔ケアを行っています。	○	支援方法を工夫して、毎食後行われるようにしたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記入はされているが、カロリー計算はされていません。個別に加減したり、十分でないときは補助食品を利用したり、時間をみて摂取されたりしています。	○	栄養士からの指導、助言を頂きバランスの取れた食事を提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルが作成されている。職員会議では定期的に勉強会を行っている。	○	定期的に感染症の研修には参加しています。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアル作成がされている。作りおきはせず、その都度作っています。新鮮な食材を使用しています。	○	2週間分の検食を行っています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花を置き、明るく入り易い雰囲気を作っています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節の花を置き、明るさはカーテン、電気で調節しています。居間の窓は大きく、一面に畑や山が広がり、季節を感じる事が出来ます。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に座り易い椅子を用意したり、ソファの位置はその時の人間関係等により工夫しています。	○	今現在は喫煙場所はない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所時、入所後も家族に働きかけ、それぞれ位 牌、テレビ、座椅子、鉢など持参されている方も おります。思い出の写真、家族の写真を居室に飾 りつけたりもしています。	○	もっと馴染みの物を持ってきて頂くよう家族に働 きかけていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度、湿度計を設置し、換気を心掛けている。 個別に加湿器使用もしています。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	各部屋入り口に手摺りを設置している。流し台の 高さは使い易いように低く改造し、浴室にも手摺 りを付けました。車椅子、シルバーカーも用意し てあります。	○	もう一つの流し台も改善予定です。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	家族了解を得て表札を提示している。又、個々に あわせた表示を付けています。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	ホーム前にはベンチを設置し庭には花、前の畑で は野菜を作っている。廊下には思い出の写真を貼 り、散歩しながら見てたのしんでいます。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成17年11月に開設したグループホームです。「その人らしい生活が送れるように」と、開設時よりスタッフ一丸となって支援しております。 家族、地域の方々と
の繋がりを大切に、地域の行事への参加、又ホームの行事への参加を呼びかけし明るく開かれたホームを目指しています。 ホームの前には広い畑があり、利用者
さんから栽培方法、手入れ等をアドバイスしていただき一緒に草を取り、畑作りをしています。今年は、じゃが芋、夕顔、ホーレン草、白菜等数え切れないほどの収穫があ
りました。又、ホームの前には花を植えておりホールから眺めて楽しんでおります。ホームの様子を伝える「さい荘だより」も2ヶ月に1回定期的に発行され家族、行政、
学校等地域の皆さんとのつながりの一つになっています。 利用者さんにはもっと今までしてきた事、経験、趣味などを活かし、力を発揮しいろんな事に共に
チャレンジできればと思っております。運営推進委員の皆様には日々貴重な意見、アドバイスを頂いております。それを真摯に受け止め日々の支援に役立てていきたいと
思っています。